

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720426

研究課題名(和文) 中国ビルマ国境域における民族景観の変容と国境域文化の創造に関する人類学的研究

研究課題名(英文) Anthropological Study on Transformation of Ethnoscapes and Formation of Borderland Cultures

研究代表者

木村 自 (KIMURA, MIZUKA)

大阪大学・人間科学研究科・助教

研究者番号：10390717

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：本科研プロジェクトでは、中国とビルマ国境間の人口流動が、国境都市・村落の人口構成と社会文化をいかに変えたのかという点について調査研究した。人口構成を民族景観として、社会変化を国境域文化の創造と定義して、中国ビルマ国境都市である瑞麗を対象に、文献調査および現地調査を行った。その結果、主に次の点についての知見が得られた。

(1) 瑞麗は国境交易の中心として発展しているとともに、国境を挟んだ地域の人々が比較的自由に国境を往来することができるため、国境による国民管理をすり抜けるような民族景観が見られる。(2) そうした民族景観は、ビルマ難民のカチン人やロヒンギャ、華僑など境界領域にある人々が参集している。

研究成果の概要(英文)：This project investigates how the population and products flows between Myanmar and China transformed the population characteristic and social cultures in towns and villages of border area. I consider the population characteristic as ethnoscapes and social transformation as a formation of border cultures. I conducted literature and field research in Ruili, a China-Myanmar border area. Following is the result of this project;

(1) Since Ruili has been developing as a border trade center and people in border area can cross the national border easily, we can see an ethnoscapes which transcend the nation-state borders. (2) This ethnoscapes attracts those who are situated in a social border areas such as Kachin refugees, Rohingya refugees and overseas Chinese.

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：中国雲南省 国境域 上ビルマ 民族景観

## 1. 研究開始当初の背景

中国とビルマ間の人口・商品・文化の流動を背景として、ビルマと国境を接する中国雲南省の中小規模都市では、ビルマ人と中国人が複雑に混住する状況が生じている。こうした民族景観の変化は、新たな「国境域文化」や「国境域コミュニティ」を出現させた。

国境域をある特殊な境界空間と理解し、その境界域における人々の流動性や文化の生成を調査分析することで、国民国家を相対化するような視点を提示することができる。東南アジアの各地域やヨーロッパ、北中米社会においては、こうした国民国家の境界域を分析対象とする研究が近年数多く提出されている。本研究が目指す中国とビルマの国境域の文化変容は、そうした人類学の大きな潮流の中にある。

## 2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究は次の3点の解明を目的としていた。

中国ビルマ国境域の民族景観の現状と変容を、フィールドワークと文献調査に基づき解明する。とくに中国ビルマ国境の中国側には、合法・違法含めた大量のビルマ人移住者が存在している。かれらの移動と社会組織の動態を調査することで、民族景観の変容を明らかにする。

中国ビルマ国境域の商業施設や宗教施設などで新たに出現した多民族間関係に着目し、複数の行為主体の力学関係のなかで創出される「国境域文化」「国境域コミュニティ」を解明する。なかでも、中国ビルマ国境域は、従来国境を越えた人口移動が激しく、独自の文化的・社会的実践が存在してきた。そうした実践に着目することで、「国境域文化」について明らかにする。

中国ビルマ国境域の社会・文化的変容を他の東アジア・東南アジア地域の国境域研究と比較することで、ポスト国民国家時代における「国境域コミュニティ」創出の意義を検討する。

## 3. 研究の方法

主にフィールド調査における観察と聞き取り調査に基づいて研究を行った。調査地域は、中国とビルマの国境域にある中小都市とした。中国では、瑞麗市を中心の調査し、ビルマ側では、マイジャーヤンおよび近郊の難民村落において調査を行った。

瑞麗市における調査は、おもに聞き取り調査である。とくに、ビルマ人移住者に焦点を当

てたため、モスクおよび玉市場において宗教指導者やコミュニティ・リーダーを対象にして聞き取り調査を行った。

マイジャーヤンと難民村落においては、言語上の問題からおもに参与観察を行った。

## 4. 研究成果

以下の研究結果が得られた。

(1) 現在、瑞麗をはじめとした国境域は、国境交易の中心として極めて繁栄している。国境域における交易に対して、納税の軽減政策が取られ、ビルマ内地や中国内地からも数多くの取引客が訪れている。

(2) 国境交易の繁栄は、瑞麗市の人口構成の変化に大きな影響を与えている。国境域に居住する富裕層の多くは、ビルマ国籍を有する(あるいは有していた)華僑である。また、瑞麗市内の多くの商店やサービス業界は、ビルマ人労働者を雇い、底辺労働に従事させている。玉産業の多くが、インド系ビルマ人であるロヒンギャによって担われている。また、ビルマ側の国境域においては、カジノなどの賭博業が繁栄しており、おもに中国人が国境を越えて賭博をしている。

(3) 瑞麗市の経済的繁栄とは対照的に、ビルマ側の国境域はアジールとしての様相も呈している。カチン族とビルマ政府との紛争を受け、ビルマ・カチン州内から大量のカチン族難民が中国とビルマの国境沿いに集結している。

(4) 以上の三点から理解するに、ネーション・ステートの境界たる国境は、国民を分かつ境界線というよりは、文化的社会的歴史的に異なる背景をもつ人々が集合し、多様な力関係のなかで社会が流動する国境域空間であると言える。その国境域空間においては、制度的な境界(徴税システム、経済格差など)を利用して多大な富が集結するとともに、麻薬や賭博などの違法行為、さらには難民が庇護を求めて集合するアジールなど、多様な役割を引き受けていると言える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

木村自 2013年8月「由伊斯蘭宗教教育制度来看云南回族社区与网络：以巍山回族经堂教育为例」中国文化フォーラム編『現代中国と東アジアの新環境：発展・共識・危機』269-275頁。

木村自 2012年7月 書評「王柳蘭『越境を

生きる雲南系ムスリム 北タイにおける共生とネットワーク』昭和堂, 2011, 404p.」『東南アジア研究』50 巻 1号、144-147 頁

木村自 2012 年 6 月「云南穆斯林移民の社会関係及宗教習俗転型---以旅居台湾の回族同胞為中心」(涂華忠訳, 姚繼德審校)『云南回族研究』第二期(総第六期) 50-62 頁。

木村自 2011 年 8 月「移民與邊界: 19 世紀末年至 20 世紀初期上緬甸中國穆斯林移民為例」周太平・包文勝編『現代中國與東亞新環境 5: 百年中国與周邊地域』内蒙古大學、223-230 頁。

〔学会発表〕(計 9 件)

【国際学会】

木村自 2014 年 5 月 18 日 “Different Contexts of Benevolence and Ethnic Interaction in the Local Community: Preliminary Report of the Charitable Activities in Myanmar.” The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 2014. At Makuhari Messe, Chiba.

木村自 2013 年 8 月 22 日「由伊斯蘭宗教教育制度来看云南回族社区与網絡: 以巍山回族経堂教育為例」中国文化フォーラム『現代中国と東アジアの新環境: 発展・共識・危機』於 大阪大学・大学会館アセンブリーホール。

木村自 2013 年 8 月 9 日“Is Overseas Muslim Chinese Chinese?: Questioning the “Chinese-ness” from the Perspective of Muslim Chinese Migrants in Myanmar” at 17th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Manchester, UK.

木村自 2011 年 8 月 21 日「移民與邊界: 19 世紀末年至 20 世紀初期上緬甸中國穆斯林移民為例」『現代中国と東アジアの新環境 百年中国と周辺地域』研究教育ワークショップ』於 内蒙古大学、呼和浩特(フフホト)。

木村自 2011 年 6 月 21 日 “Producing a Locality in Multi Dimensional Ways: the Case of the Yunnanese Muslims Diaspora in Myanmar and Taiwan.” The International Society for the Studies of Chinese Overseas (ISSCO) at The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong.

木村自 2011 年 4 月 1 日 “LANDSCAPES OF DIASPORA: Ethnic and Religious Landscape of Yunnanese Muslims in a Transnational Social Sphere.” Joint Conference of the Association for Asian Studies & International Convention of Asia Scholars. at Hawai ' i Convention Center, Honolulu,

Hawaii, USA.

【国内学会】

木村自 2013 年 11 月 16 日「ディアスポラ論の展開と華僑華人研究 雲南華裔ムスリムの離散と集合から考える」2013 年度年次大会(学会設立 10 周年記念大会)(慶応大学)

木村自 2013 年 10 月 26 日「人類学と「境界人」 華人・エスニシティ・ディアスポラ」日本現代中国学会第 63 回全国学術大会(福岡大学)

木村自 2012 年 6 月 9 日「中国における「民族」論の今日的展開 「族群」の政治性、「民族」の可塑性」『現代中国学会』関西支部 於 摂南大学大阪センター。

〔図書〕(計 5 件)

木村自 2013 年 3 月「「民族」を使いこなす 「脱政治化」論と「民族」の政治論的転換について」大阪大学中国文化フォーラム編『現代中国に関する 13 の問い 中国地域研究講義』OUFC ブックレット vol.1) 127-147 頁。

木村自 2012 年 11 月「グローバル化と移民を結ぶ文化的ロジック 台湾の華僑ムスリム移民はグローバルなフローをいかに意味づけるのか」三尾裕子・床呂郁哉編著『グローバル化と移民 人類学、歴史学、地域研究の現場から』弘文堂、203-231 頁。

木村自 2012 年 3 月「『掌握』する国家、『ずらす』移民 李大媽のライフ・ヒストリーから見た身分証とパスポート」陳天璽他編『移民とアイデンティフィケーション 国籍・パスポート・ID カード』新曜社、134-163 頁。

木村自 2012 年 3 月「輩行字(通字)の多様性が示すもの フェ・フオンヴィン社に居住する中国系住民の命名法を事例として」西村昌也他編『フェ地域の歴史と文化 周辺集落と外からの視点(周縁の文化交渉学シリーズ 7)』関西大学文化交渉学教育研究拠点(ICIS) 249-266 頁。

木村自 2012 年 3 月「中国における「民族」論の今日的展開 「族群」の政治性・「民族」の可塑性」田中仁・三好恵眞子編『共進化する現代中国研究 中国地域研究の新たなプラットフォーム』大阪大学出版会、185-204 頁。

木村自 2012 年 2 月「越境するコミュニティと共同性 台湾華僑ムスリム移民の「社会」と「共同体」」平井京之介編『実践とし

『そのコミュニティ 移動・国家・運動』京都大学学術出版会、69-98 頁。

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
なし ( )

研究者番号：

(2) 研究分担者  
なし ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
なし ( )

研究者番号：